

教育委員会協議会議題

平成19年9月26日

1 報告事項

(1) 生涯学習センター下曾我分館及び図書館下曾我分館の臨時休館について

(資料1 生涯学習政策課)

(2) (仮称) 杉本博司文化財団の芸術文化施設計画について

(資料2 生涯学習政策課)

下曾我支所・生涯学習センター下曾我分館構造調査

1 建物概要：木造2階建て、延べ床面積 603.86 m²、昭和30年竣工

2 調査年月日：平成19年8月7日

3 調査方法：腰壁撤去の上、柱及び土台の状況確認

外部及び内部の状況を目視、レベルチェックにより確認

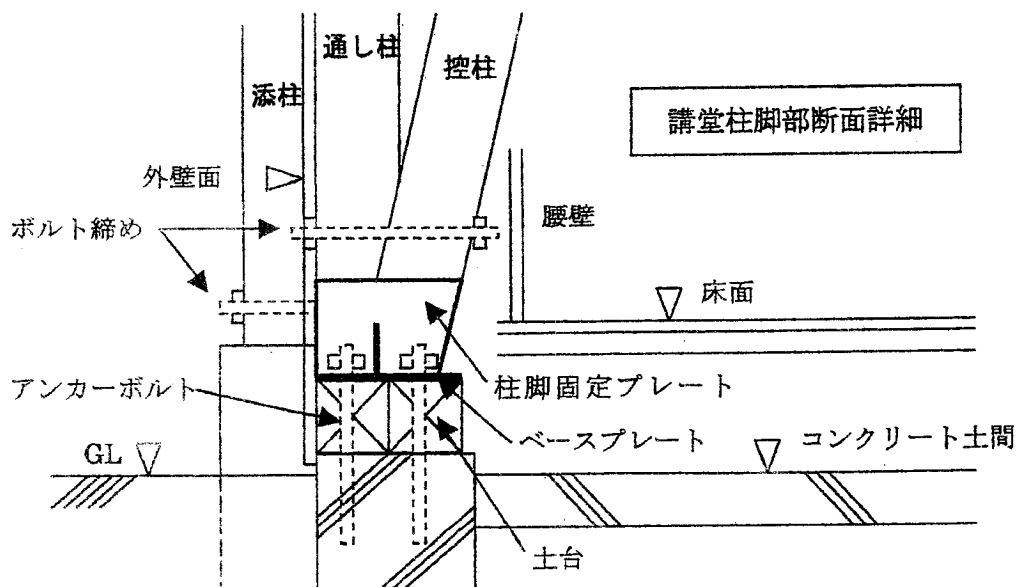
4 調査者：調査者 建築課職員

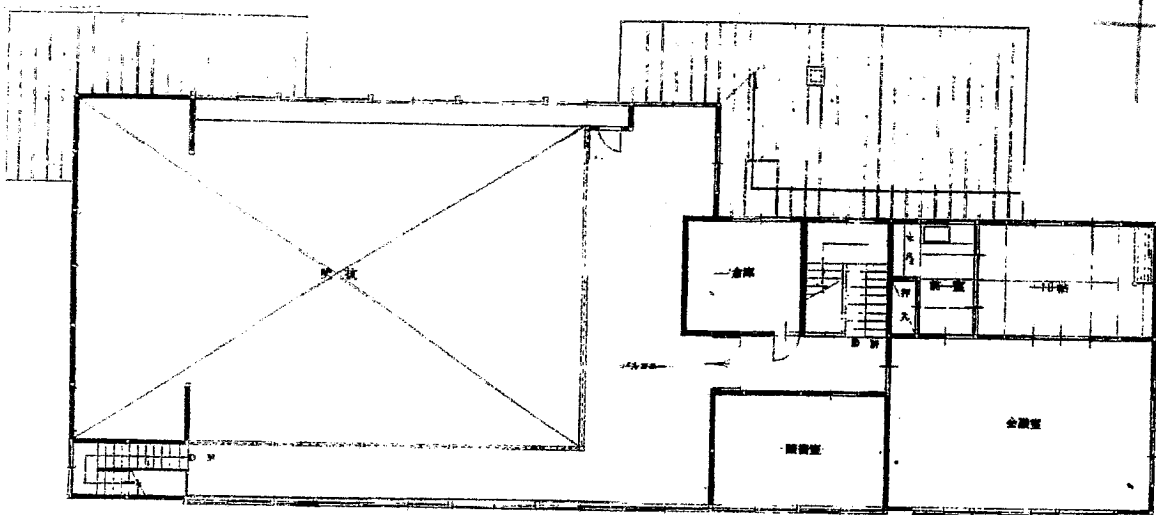
立会者 市民窓口課職員、企画政策課職員

協力業者 犬童工務店

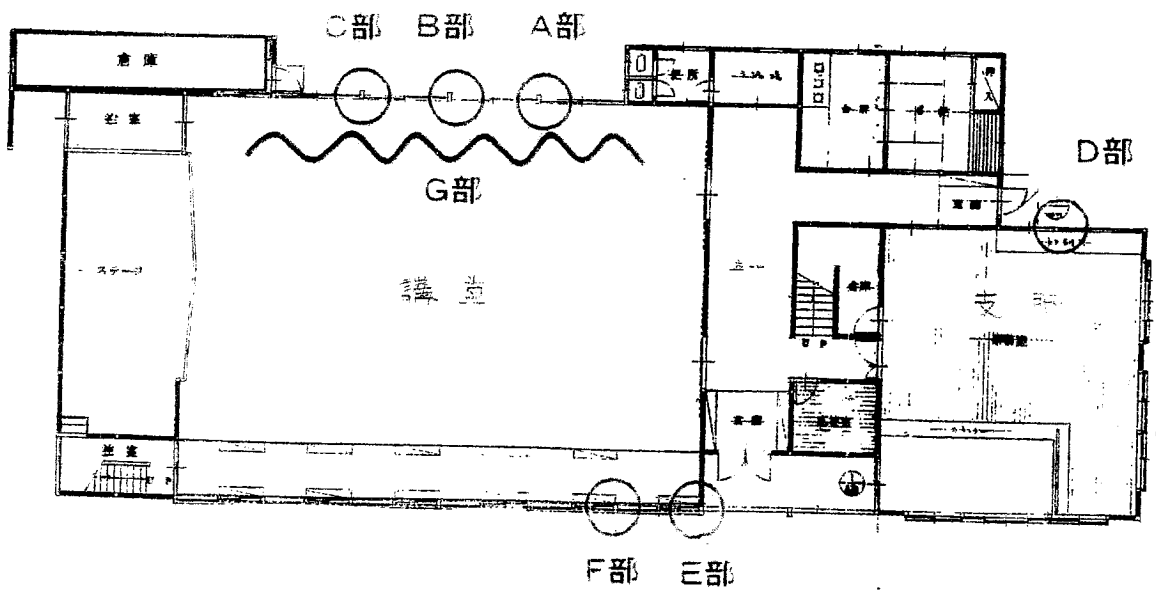
5 調査結果：

- ・ 講堂部南北にある主柱の柱脚及び土台部において、白蟻や水掛かり等による腐食が見られる。
- ・ 特に北面では、柱付近において、腐食によると見られる柱の沈下の影響で、アルミ建具で約5ミリ、窓台で約2.5センチ下がっている。
- ・ また、柱脚部のアンカーボルトが緊結されていない部分も見られる。
- ・ このような状況は講堂部主柱全般に見られ、構造体の荷重や応力を基礎に伝えることができない状況（逆に、柱がぶら下がっている状態）であり、構造的に危険な状況であるといえる。
- ・ 支所部分は、外回りの地盤が高く、土台が地盤面より数センチしか上がっておらず、土台部に白蟻等による腐食が見られる。
- ・ 建物外部においても、露出している柱等には、経年による劣化が見られる。
- ・ 外壁を撤去しての調査は、支所、講堂 各1箇所実施したが、白蟻や水掛かり等による被害は、柱の沈下状況などからも、建物基礎部全体に及んでいることが推測でき、建物の安全性が危惧される。





2階



1階



要 望 書

下曾我支所・生涯学習センター下曾我分館の 補強工事の早期実施についての要望

日ごろ、自治会活動に対し、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、現在の下曾我支所及び生涯学習センター下曾我分館は、シロアリ被害等の問題により、支所部分を除き9月1日から臨時休館となっております。

この施設は、下曾我村時代から村役場として使用され、現在でも、スポーツ、生涯学習、地域福祉活動などに盛んに使用され、下曾我地区の住民にとって、無くてはならない、心の拠りどころともいふべき場所であります。

そのような施設であることをご理解していただいたうえで、下曾我地区自治会連合会では、地域住民の切実な願いとして、次のことについて、住民を代表して要望させていただきます。

1. 現在の下曾我支所及び生涯学習センター下曾我分館の補強工事等を早期に実施し、再び下曾我地区の地域活動の拠点として利用できるようにすること。
2. 補強工事の終了後には、下曾我地区に無償で貸与していただくこと。

我々住民としては、この歴史ある施設を、下曾我地区住民の手で管理しながら、大切に使用し、地域の拠点として地域活動の推進に役立てて参りたいと思いますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

平成 19年 9 月 6 日

小田原市 教育長 青木 秀夫 様

下曾我地区連合自治会

会長 穂坂 敏雄



曾我原地区自治会

会長 曾我 育巳



曾我谷津地区自治会

会長 神保 武七



曾我岸地区自治会

会長 近藤 義幸



曾我別所地区自治会

会長 穂坂 敏雄



曾我神戸地区自治会

会長 渡邊 一造



曾我山岸地区自治会

会長 柳川 昌弘



下曾我地区社会福祉協議会

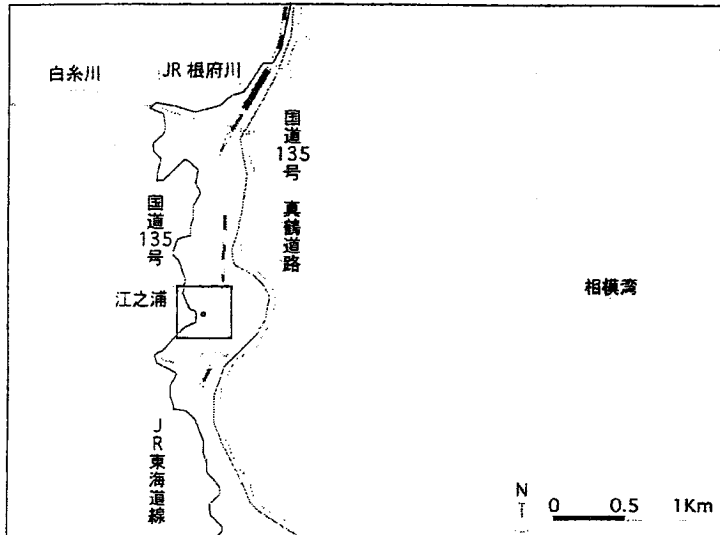
民生児童会

会長 曾我 良子

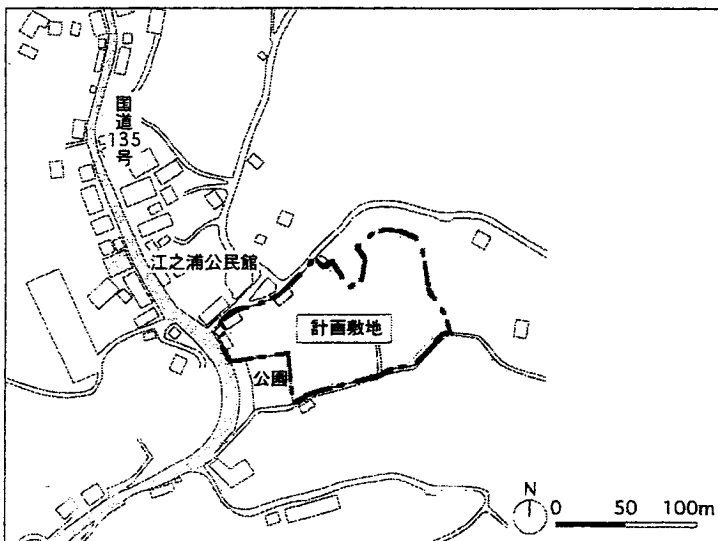


(仮) 杉本博司文化財団芸術文化施設 計画概要

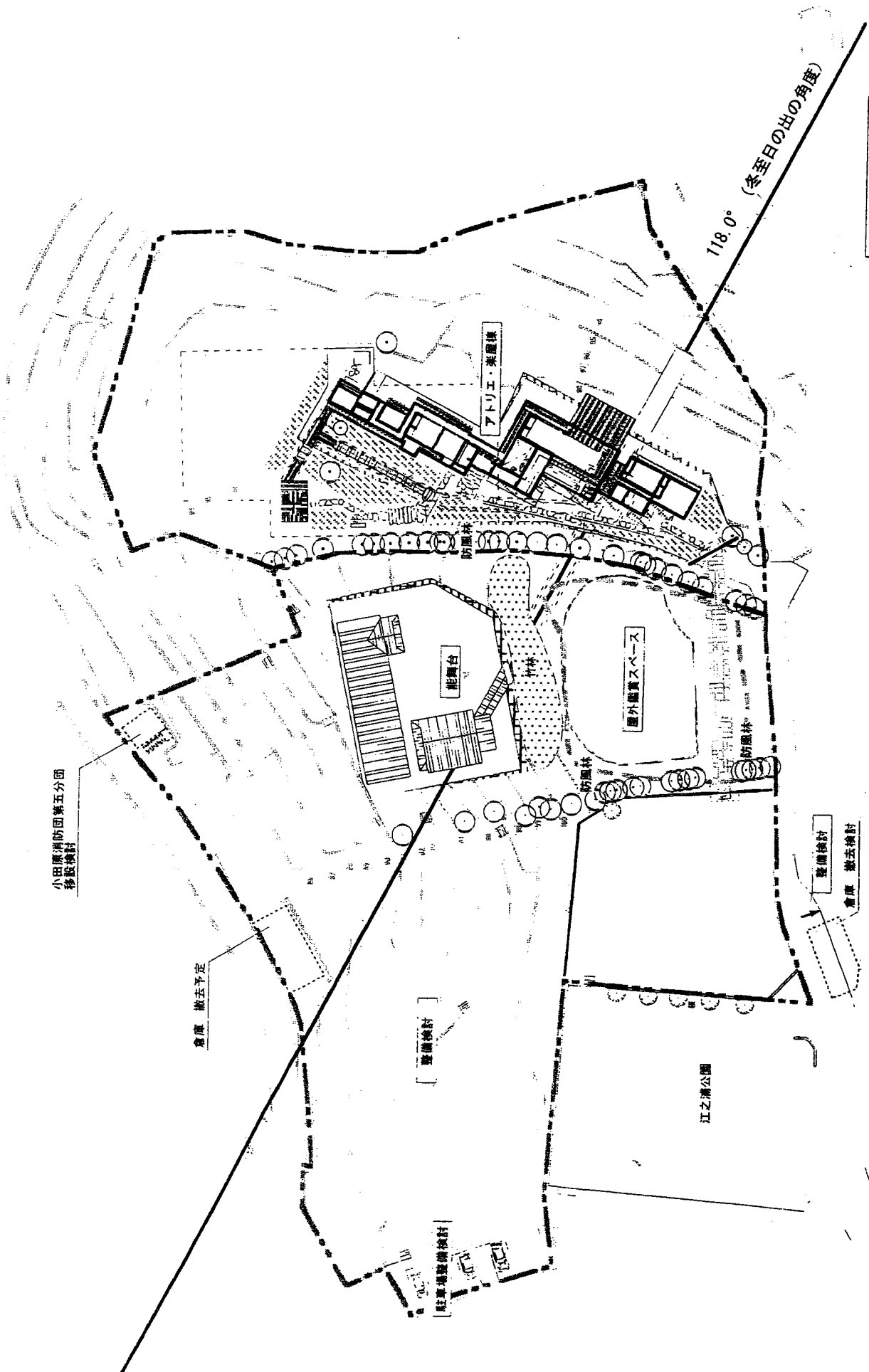
所在地： 神奈川県小田原市江之浦
敷地面積： 約 10,000 平米
計画用途： アトリエ及び観光資源鑑賞施設
主要施設： アトリエ・楽屋棟
能舞台
屋外鑑賞スペース



周辺地図



計画敷地周辺図



検討図



118.0° (冬至日の出の角度)

2007.09.07	100-0001-0	(備考) 杉本博司文化財団 芸術文化施設計画案
		土地利用構想図

杉本博司文化財団 概要

所在地： 神奈川県小田原市江之浦 362

活動の趣旨： 杉本博司の現代美術及び日本の伝統芸能に関する活動を公開し、代々受け継がれてきた伝統芸能を現代美術作家杉本博司の視点で捉えなおし、次の世代に継承することを目的とする。

活動の内容：

- (1) 杉本博司作品の展示。あえて江之浦という自然空間のなかで現代美術を鑑賞する。
- (2) 伝統芸能の若手演者が実験的な試みを行なえるよう、制作活動を支援する研究団体を設立。公開稽古等も企画する。

理事候補者

- 千宗屋 (茶道武者小路千家家元後嗣、財団法人管休庵常任理事)
- 亀井広忠 (能楽囃子方大鼓)
- 野村万斎 (狂言師)
- 豊竹咲甫太夫 (文楽、浄瑠璃)
- 瀬津勲 (瀬津雅陶堂店主)
- 杉本博司
- 杉本聡子 (杉本博司長女)
- 小柳敦子 (ギャラリー小柳代表)

評議員、顧問、相談役候補者

- 根津公一 (財団法人根津美術館館長、株式会社東武百貨店社長)
- 建畠哲 (大阪国立国際美術館館長)
- 林屋晴三 (東京国立博物館名誉会員、日本茶道協会会長)
- 蓑豊 (金沢市助役、金沢市 21 世紀美術館館長)
- ケリー・ブラウアー (スミソニアン研究所 ハーシュホーン美術館・彫刻庭園アート&プログラム・ディレクター/チーフ・キュレーター)
- 大林剛郎 (株式会社大林組会長)
- 原俊夫 (原美術館館長)
- 森佳子 (森美術館理事長)

事務局： 局長 杉本誠三 (杉本博司実弟)
山口健二

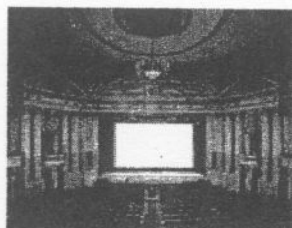
杉本博司プロフィール



1948年東京都に生まれる。立教大学経済学部を卒業後、ロサンゼルス・デザインアートセンター・デザイン・カレッジで写真を学び、1974年からニューヨークで写真作品の制作を開始。以後、ニューヨークと東京を拠点に活動を行い、メトロポリタン美術館、ボストン美術館、シカゴ現代美術館、グッゲンハイム美術館など世界の著名美術館で個展を開催。代表作に、自然史博物館の剥製動物を撮影した「ジオラマ」シリーズ、長時間露光により全米の映画館を撮影した「劇場」シリーズ、世界各地の水平線を同一手法で撮影した「海景」シリーズなど。



「シロクマ」1976



「アル・リンリン、バラブー」1995



「カリブ海、ジャマイカ」1980

2001年、「写真界のノーベル賞」といわれる、ハッセルブラッド国際写真賞を受賞。2005年9月から2006年1月にかけて東京の森美術館で開催した回顧展「杉本博司：時間の終わり」は総入場者数が51万人を超え、2006年の展覧会の入場者数として日本一を記録。また、杉本自身が選んだ古美術品と写真作品を組み合わせる「歴史の歴史」展はニューヨーク誌によって2005年度の最優秀美術展に選ばれた。

2007年は国立国際美術館（大阪）での作品展のほか、アジア美術館（サンフランシスコ）、ロイヤルオンタリオ博物館（トロント）、K20州立美術館（デュッセルドルフ）、ヴィラ・マニン現代芸術センター（ベニス）など世界各国で個展を開催。2008年以降もヨーロッパ各地や日本で大規模な個展を予定。

杉本は、写真家としての活動のほか、能などパフォーマンスアートのプロデュースも積極的に行っている。森美術館で開催された「杉本博司：時間の終わり」では、会場内に能舞台を制作し、観世鍔之丞、浅見真州、野村萬斎ら当代の名手が出演する能「鷹姫」の特別公演をプロデュース。また、建築分野にも関わりが深く、香川県直島の「ベネッセアートサイト直島」が行う「家プロジェクト」（現代美術作家による古民家再生プロジェクト）に参加し、江戸時代から祀られている護王神社を再建した。そのほか、東京の文化振興について専門的な見地から調査審議を行う「東京芸術文化評議会」に評議員として参加。